

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（警報）

令和8年3月5日（木）15時00分

北海道岩見沢保健所

電話：0126-20-0175

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和8年第9週（令和8年2月23日～3月1日）において、岩見沢保健所管内（※）の定点あたりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数が、警報基準である8人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、岩見沢保健所管内（※）において流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いします。

※岩見沢保健所管内・・・夕張市、岩見沢市、美唄市、三笠市、南幌町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町

記

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防

患者との濃厚接触を避けることが最も重要とされていますが、実際には困難な場合が多いと思われます。保育施設など集団生活の場では、熱やのどの痛みがある児との接触を避ける、そのような症状があれば可能な限り休ませるなどの対策が必要です。手洗いやうがいの徹底も重要です。おもちゃなどの口に入る器具や食器にも注意が必要です。

なお、健康保菌者からの感染はまれとされています。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

細菌の一種であるA群溶血性レンサ球菌がのどに感染しておこる感染症で、接触感染や飛沫感染を起こします。のどの腫れ、痛み、発熱、首のリンパ節の腫れなどの症状のほか、発疹を伴う「猩紅熱」を引き起こしたり、数週間後になって心臓弁膜症の原因となる「リウマチ熱」や腎臓をおかす「溶連菌感染後急性糸球体腎炎」などを引き起こすことがあります。

適切な抗菌薬を一定期間使用することは、特にリウマチ熱の予防に有効であるとされています。

年齢別にみると、5歳～15歳が最も多く、幼稚園や保育所、学校などの集団生活の場での感染が多くみられます。

春～夏にかけての感染もみられますが、流行のピークは冬です。

3 その他

(1) 最近5週間における定点医療機関からの患者報告数（表示は、「報告数(患者/定点)」単位：人）

	第5週 (1/26～2/1)	第6週 (2/2～2/8)	第7週 (2/9～2/15)	第8週 (2/16～2/22)	第9週※ (2/23～3/1)
岩見沢保健所	9(4.50)	14(7.00)	4(2.00)	13(6.50)	18(9.00)
全道	577(5.66)	644(6.31)	613(6.07)	733(7.33)	- (-)
全国	6,511(2.82)	6,698(2.90)	6,143(2.66)	- (-)	- (-)

※第9週の患者報告数は速報値

※第8週までは、北海道感染症情報センター公表のデータによる

(URL : <http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>)

(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した各保健所管内の定点医療機関を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数が、国立感染症研究所において設定した警報レベルの基準値に達したときに発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報レベル＞

警報	開始基準値	終息基準値
定点あたり患者数(人)	8	4